



カテル株式会社



地域のDX推進事業部として、 勝ち残るための経営を協働

代表取締役 渡邊 博昭 氏



日常生活に深く浸透したインターネットは、コンピュータやスマートフォン等を繋ぐ通信網として人やモノの情報共有を瞬時に可能にし、ビジネスの世界にも革命をもたらしてきた。2004年に創業した「カテル株式会社」はインターネットを活用したウェブサイト制作・システム開発を軸に、栃木県内外の企業に対して、デジタル技術でビジネスを再構築するDXを推進する。代表取締役・渡邊博昭氏は地域金融機関と連携し、一丸となって中堅・中小企業の存続をかけた変革を支えている。

経営課題を解決するための ITとデザインを提案

同社は前身となる企業の事業を引き継ぐ形で設立された。代表である渡邊博昭氏は地域金融機関で13年経験を積み、出向先だった前身の会社でウェブサイトを活用した情報発信や業務効率化のためのアプリケーションの提供に携わる。そして出向元の経営破綻に伴い、出向先の社員をそのまま引き受けて4人で

36歳の時に独立した。当初は銀行員から異業種への転身で業界からの風当りは強かったという。しかし時流はインターネットが商業化され、ウェブサイトやシステムが経営の要となるツールとして普及していく。

渡邊社長は、「栃木県を中心とした地域の中堅・中小企業の皆さまに対して、インターネットの活用を通してお役に立ちたいという軸はずっと変わりません。クライアントと事業の棚卸しから行い、経営戦略を見直した上で、コンテンツ制作やシステムの提案をしています。当時は経営者視点で営業する制作会社は少なかったと思います」と、金融機関で培った知識を土台に順調に業績を伸ばしてきた。

同社の強みは、経営課題を解決するためのツールをITとデザインを駆使して制作するだけでなく、企画から制作、運用までをワンストップで対応できる点だ。現在はデザイナー、エンジニア、映像クリエイターなど様々な職種のプロフェッショナルが80名ほど在籍。多業種に渡る客先に応じて、ビジネスに貢献できるあらゆるデザインやシステムを手掛ける北関東最大級の制作会社に成長した。

最新IT技術やマーケティング戦略を 地域の企業や店舗に還元

今では県内企業や大学、自治体のウェブサイト800～900件を制作・運用するほか、広告宣伝全般に関するコンテンツ制作、業務効率化に必要なシステムをオーダーメイドで開発する。取引先の9割は栃木県内だが、売上の7～8割は東京の大手広告代理店や制作会社から委託される業務で、大企業のウェブサイトやアプリなどの制作を請け負っている。

渡邊社長は次のように捉える。「東京で仕事をする



ワンフロアのオフィスには営業と制作が一体となって活動。ウェブサイト、システム開発、紙媒体、店舗デザインなどを企画・制作・運用一貫体制で提供

ことは極めて重要で、その要求水準に耐えられる技術力や経験が必要です。依頼先からはフロントエンドからバックエンドまで一貫して対応できるので重宝がられています。例えばウェブサイトでコーディングだけ請け負ったとしても、その後のデザイン修正もできて、キャンペーンを仕掛ける際は特設ページの制作や分析などにも関わることができます。ネットの世界ではデザインやマーケティングを展開する意思決定の90%が東京で行われます。東京でノウハウや情報を得てスキルを磨き、地域の顧客に対しては東京レベルの技術力を提供することは顧客へのサービス向上になります。これからの時代、地域の企業が勝てる企業になるためには、DXが生き残る術になってきます」と、力を込める。

DXはデジタル技術を活用して、ビジネスモデルを変えること。新しい技術である3DメタバースやAI等を企業が導入・活用する際には、実際のビジネスでの費用対効果や普及率を見極めることも大事だという。今や東京や海外の大規模資本の企業が各地に進出し、地元企業は強豪に顧客を奪われ、インターネット上には通販サイトやネット銀行などがひしめき合う。

「私たちのような地域の企業や店舗は、地元の人たちに保護されるのではなく、必要だから生き残っていかないといつか淘汰されます」と、渡邊社長は危機感を示す。

顧客とは運命共同体 栃木県チームを組んで躍進

渡邊社長自身「我々と顧客は運命共同体」と語るように、地元・栃木県を元気にしたいという気概を持つ



本社があるウツノミヤサイト。
切り出しの大谷石を壁面に使い、遊び心が随所に

て歩んできた。「DXは難しいものではありません。事業の棚卸しをして再構築した時に、人材採用や事業の根幹なる道具がウェブサイトや映像などのコンテンツの場合もあるし、業務システムかもしれない。今はWi-Fiさえ繋がってれば、会議もすぐにでき、海外での拠点設立も簡単にできます。例えば国内製造の商品を、人材が確保できる海外で製造して生産量をダイリーでデータ管理するといった業務システムも皆さんが考えるほど難しくないわけです」と、顧客と同じ目線で解決策を探っている。

「顧客が今ある状況は、他人事ではなく当事者として捉えています。失敗しないよう緊張感を持って仕事をしていますし、まずは生きていくために将来何が必要かを一緒に考えます。勝てると利益が上がり好循環で回りますから、地域のDXを推進して、一緒に頑張れば良い世界があると信じて合理的な道を見つけ出すことからスタートです。そして、小さな成果を喜び合えばそれでいい。当社でも経営の安定化は必須です」と、温度感を高く躍進する。

経営の安定化に向けて、2023年11月には足利銀行の子会社である株式会社ウイング・キャピタル・パートナーズが運営するファンドから出資を受けた。社員の生活を保障するとともに、地域の企業を強力に支援するため、栃木県の企業がどんなときでも勝てると信じて戦い続ける強い未来を創造していく。



積極的に新卒採用を行い、教育体制も整えている

会社概要：カテル株式会社

代表者／渡邊 博昭
所在地／宇都宮市西川田1-7-11 ウツノミヤサイト
資本金／5,000万円
従業員／80名
URL／<https://caters.co.jp/>

